

2026年2月1日

神戸学園都市 YMCA こども園 2月えんだより

2月の聖句 「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。」
ヨハネによる福音書15章12節

1月から例年になく厳しい寒さが続き、大雪による被害も広がっていましたが、間もなく節分、立春と「春」がそこまで近づいてきました。寒さが厳しい冬があつてこそ、「春」を迎える喜びが大きくなるように思います。年々「春」が短くなっているように感じますが、子どもたちと共に思い切り「春」を楽しみたいと思います。

少し前のことになりますが、2019年の年間流行語大賞に「One Team (ワンチーム)」が選ばれました。この年のラグビーワールドカップで史上初のベスト8を果した日本代表チームのヘッドコーチが掲げたスローガンで「様々な国籍・文化の選手が1つの目標に向かって結束する」との思いが込められていたそうです。ラグビーの世界でよく使われる言葉に「One for all, All for one」というものがあります。「1人は全員のために、全員は1つの目標のために」との意味があるそうです。

スポーツの世界でありませんが、これとよく似た言葉を目にする場所があります。その場所とは、コープこうべの店舗です。「一人は万人のために、万人は一人のために」この言葉は、協同組合運動の中でその理念・精神を表す言葉として広く使われているものだそうです。

多くの神戸市民が親しみを込めて「コープさん」と呼ぶ「コープこうべ」。その歴史は今から100年余り前の1921年に神戸市中央区で労働者救済のために「神戸購買組合」が創設されたところから始まり、この時スタートした組合員の家を回って注文を聞いて回る制度で注文を聞いて回る人を「購買さん」と親しみを込めて呼んでいたそうです。同じ頃、灘で「灘購買組合」が創設され、後にこの2つの組合が一つとなって「灘神戸生活協同組合」が誕生し、1991年には組合員数が100万人を超えて現在の「コープこうべ」となったそうです。

この「コープさん」の創世記の2つの組合創設の中心人物の一人に賀川豊彦という方がいました。彼は、精神的、物質的に恵まれない幼少期を過ごし、青年期には教会の牧師の献身的な介護で病による瀕死の状況乗り越える体験をしました。その後、神戸の貧民街に移り住み、貧しい人々の救済活動に尽力しました。この救済活動の一つとして、生活安定のために「人々が互いに協同し、生活を守り合う」消費組合の創設に携わりました。また、「困っている人々を救うためには、物質的な援助だけでなくみんなが共に助け合うこと」の必要性を演説会等を通して啓蒙する活動なども行っていました。また、関東大震災の際には自ら被災地に駆けつけ、様々な救援活動も行いました。

一方で、こども達の人権を守ることに取り組み、多くの幼稚園や保育園の開設にも携わり、多くの園が現在でも賀川豊彦の精神を受け継いで保育を続けています。恵まれない環境の中で育ち、生死の境をさまよう経験をもした賀川豊彦の生きる力となったものは、キリスト教の宣教師や牧師との出会いと交わり、キリスト教の教えでした。中でも、生死の境をさまよっている時に献身的に看病してくれた牧師の生きざまが彼のその後の生き方に大きく影響したのだと思います。その時、牧師の中に神様の愛を見て、自分が神様によって生かされたのは「弱くされたものに仕える」ことだと。

私たちは、神様の愛を直接見ることはできませんが、誰かの中に神様の愛を見ることはできるのではないかと思います。今、目の前にいる人の中に神様の愛を見出し、お互いに神様から愛されている存在であることを感じるができること。その積み重ねが、これから出会う人々の中にも神様の愛を見出すことができるようになること。そして、神様の愛がつながること、互いに愛し合う人の輪が広がることを信じて、日々のお会いと交わりを大切に歩みたいと思います。

2月	乳児 (0,1,2 歳児)	幼児 (0,1,2 歳児)
月主題	だいすき	つながりあう/豊かになる
月の願い	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の祈る姿を見て一緒に祈ろうとする。 ・友だちの存在をうれしいものとして感じ、一緒に遊びながらいろいろな思いに気づく。 ・冬の自然を感じながら遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・神さまの愛を感じ、友だちや家族、他者のために祈ろうとする。 ・友だちと遊びを繰り返す中で相手の思いに気づく。自分の思いを伝えることを保育者と共に経験する。 ・寒さの中でも、木の芽など次の季節への準備がなされていることに気付く。
讃美歌	「つくしのよう」 幼児讃美歌50	「かなしいことがあっても」 こども改131